

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	中央区
学 校 名	大阪市立開平小学校
学校長名	岩本 由紀

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立開平小学校では、第6学年 48名

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語、算数ともに大阪府平均・全国平均を上回る結果となった。平均正答率で、全国平均と比べ国語で6ポイント、算数で6ポイント上回っている。平均無回答率は、算数が全国平均の3分の1以下であった。理科は、児童の学習意欲は高いが、結果としてあらわれなかった。児童質問紙については、「自分には、よいところがあると思う」の項目をはじめ、自己肯定感・将来、学習・読書・友達との協力などの様々な質問について肯定的な回答が数多く見られ、児童の前向きな意識があらわれた結果となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕文章の内容を読み取って理解することはできている。また、自分の考えや感想など、主観的に伝えたいことについては、意欲的に書いて表現することができている。記述の問題を中心に、主観的な感想や考えは書けていても、問題文の中の条件を細かく読みとって、表現をすることができていない。長い文章をていねいに読んで解いていないことがわかる。

〔算数〕全体的に、計算・最小公倍数・割合を求める問題など、学習した内容について求める問題についてはよくできている。また、問題について解決しようと意欲的に取り組むことができている。課題解決の方法を表現する問題で、説明しようとすることはできているものの、参考にするべき例を使わずに表現してしまっていたり、問題の主旨をきちんと読み取って解答できずに間違ったりするようである。

〔理科〕選択式の問題では無回答率が概ね0%であり、正答率も高いことから、提示されたキーワードや解答群の中から正しい答えにたどり着くことができていると思われる。生命「地球」の分野から出題されるB区分の領域では概ね全国平均と大阪府平均を超える水準であるが、「エネルギー」「粒子」の分野から出題されるA区分の領域では全国平均・大阪府平均をともに下回っていることから化学・物理分野での習熟度が十分でないことも推察される。

質問紙調査より

本校で肯定的回答が全国平均を上回った項目が数多くあった。中でも「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」と自己肯定感に関する項目が顕著であった。このことは「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」の項目においても肯定的回答が高いことに結びついている、と考えられる。しかし、課題と考えている事項としては、「友達と協力するのは楽しいと思いますか」についてである。もう少し協働して物を成し遂げていく機会や経験を設けていきたいと考えている。

今後の取組(アクションプラン)

課題文を意識して表現することができるように条件を満たしているかどうかの確認させるようにする。そして、なぜその考えをもっているかの根拠を問題文の中から見つけ出すことができるように意識しながら、話し合いを中心とした授業づくりにつとめる。

学習内容の中で、答えを見つけて出すことために、どんな方法を選んで解決しているのかをしっかりと自分で意識できるようにしたい。問題文から読み取った内容を自分で図や絵を描くなどして、イメージをしっかりとつことができる習慣をつけていく。

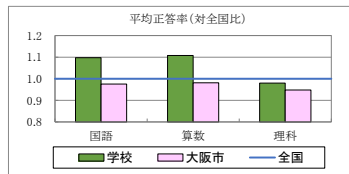
ICTをうまく活用し、「話し合って」交流することの児童らの熱意や意欲を「書いて」交流することに置き換えて、自分の言葉で考察を書くことに慣れさせていく。

引き続き、お互いを認め合える集団作りを通して、協働できる仲間づくりができる指導を行

【 全体の概要 】

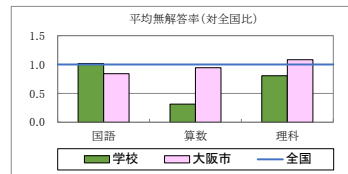
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	72.0	70.0	62.0
大阪市	64.0	62.0	60.0
全国	65.6	63.2	63.3



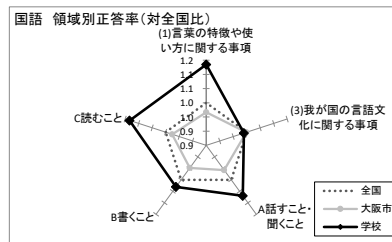
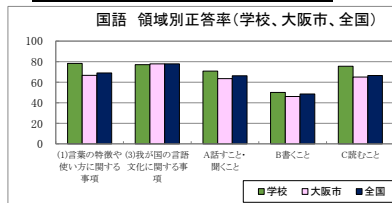
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	5.8	1.1	2.9
大阪市	4.8	3.3	3.9
全国	5.7	3.5	3.6



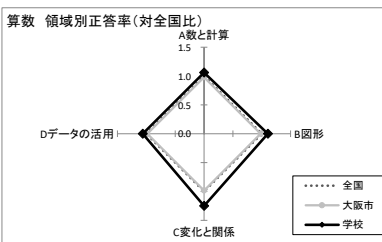
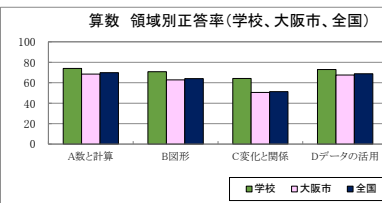
【 国語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	5	78.3	66.7	69.0
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語 文化に関する事項	1	77.1	77.8	77.9
A 話すこと・聞くこと	2	70.8	63.4	66.2
B 書くこと	2	50.0	46.0	48.5
C 読むこと	4	75.5	65.0	66.6



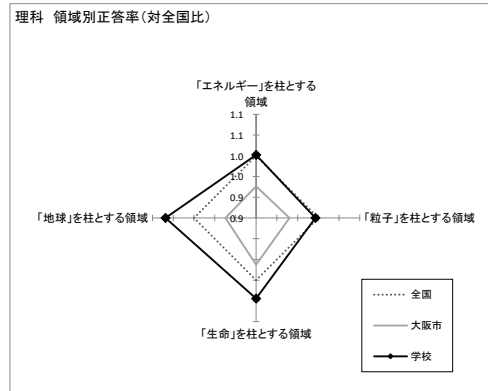
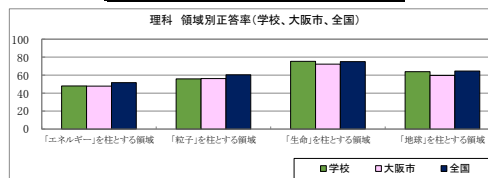
【 算数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	74.0	68.4	69.8
B 図形	4	70.8	62.8	64.0
C 測定	0			
C 変化と関係	4	64.1	50.5	51.3
D データの活用	3	72.9	67.5	68.7



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分 「エネルギー」を 柱とする領域	4	47.9	47.8	51.6
「粒子」を 柱とする領域	5	55.8	56.2	60.4
B 区分 「生命」を 柱とする領域	5	75.4	72.2	75.0
「地球」を 柱とする領域	5	63.8	59.7	64.6



児童質問紙より

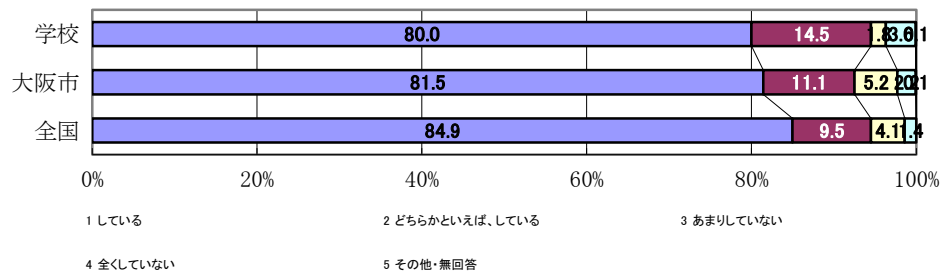
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

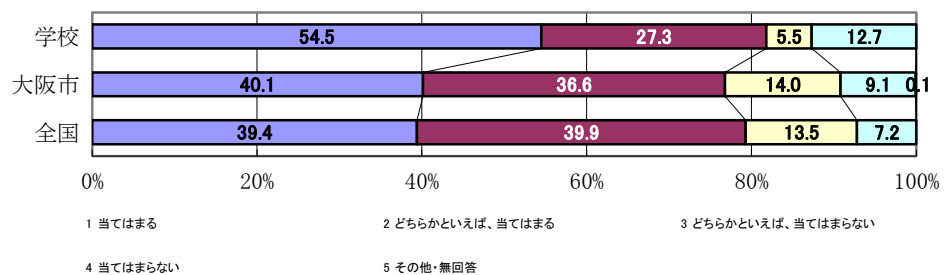
1

朝食を毎日食べていますか



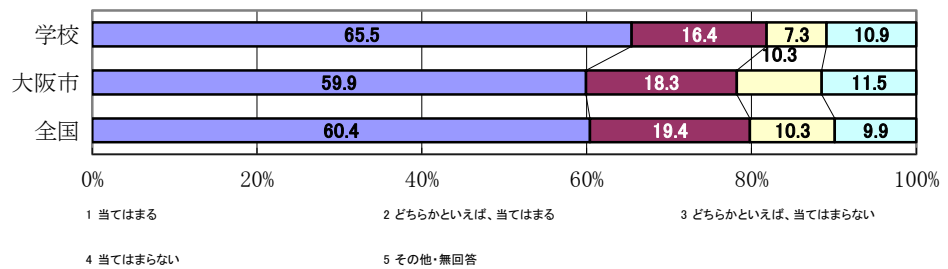
7

自分には、よいところがあると思いますか



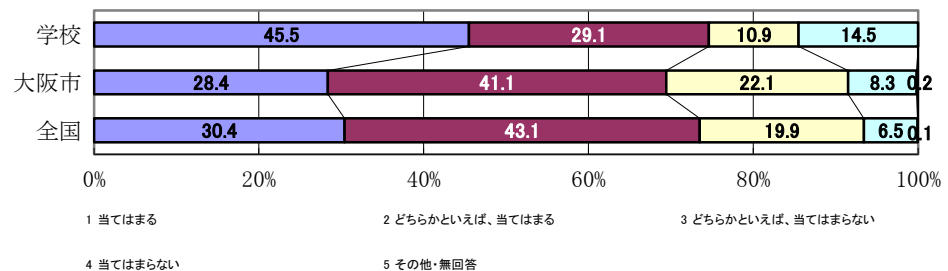
9

将来の夢や目標を持っていますか



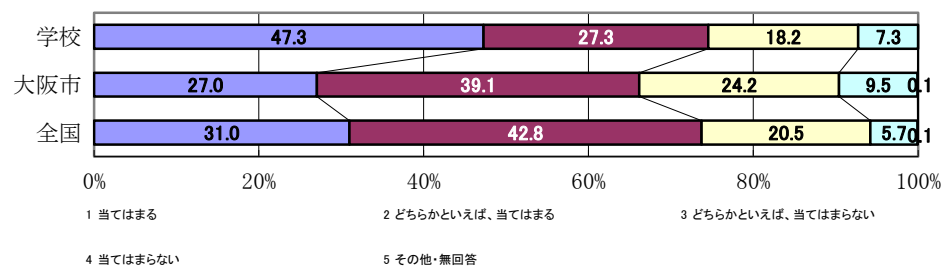
17

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



47

学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか



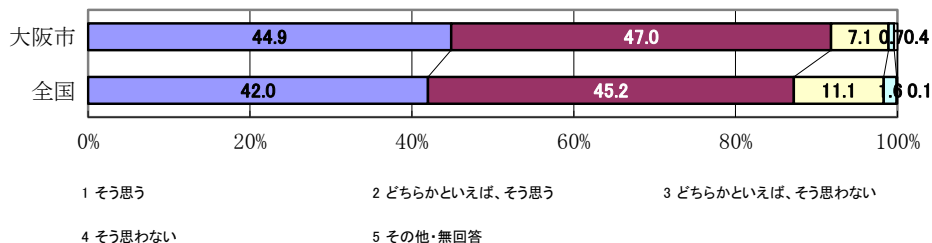
学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

質問番号
質問事項

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

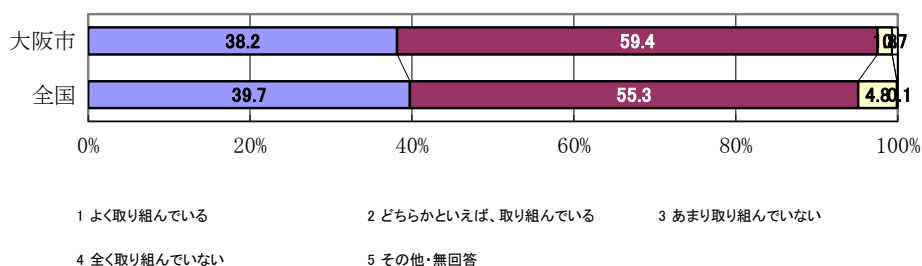
学校「そう思う」を選択



14

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)に取り組んでいますか

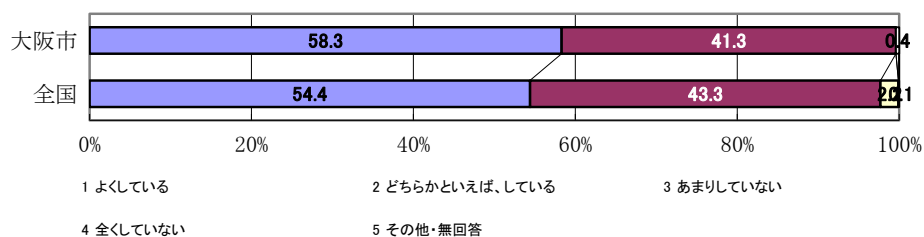
学校「よく取り組んでいる」を選択



19

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

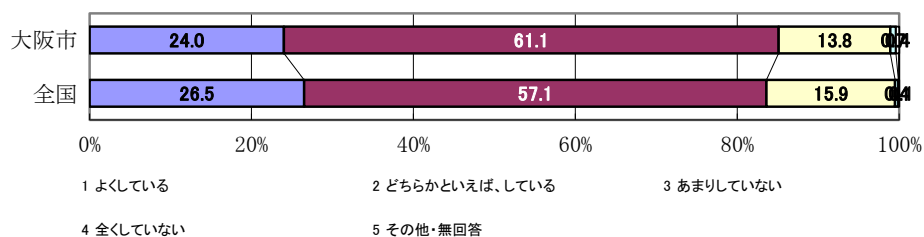
学校「よくしている」を選択



20

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか

学校「よくしている」を選択



25

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校「そう思う」を選択

